



九州作業療法学会 2021 in 熊本

Kyushu Occupational Therapy Congress 2021 in Kumamoto

「響創」

～作業療法が奏でる人・作業・環境のハーモニー～

プログラム・学会誌

学会会期 2021年 6月19日(土)・20日(日)

Web配信 2021年 6月1日(火)～30日(水)

会場 熊本テルサ 熊本県熊本市中央区水前寺公園28-51

学会長 内田 正剛

一般社団法人 熊本県作業療法士会 会長
(医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院)



九州作業療法学会 2021 in 熊本

Kyushu Occupational Therapy Congress 2021 in Kumamoto

「響創」

～作業療法が奏でる人・作業・環境のハーモニー～

｜プログラム・学会誌｜

学会会期 2021年6月19日(土)・20日(日)

Web配信 2021年6月1日(火)～30日(水)

会場 熊本テルサ 熊本県熊本市中央区水前寺公園28-51

学会長 内田 正剛
一般社団法人 熊本県作業療法士会 会長
(医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院)

主催 九州作業療法士会会長会

学会事務局

一般社団法人 熊本県作業療法士会

〒861-8045 熊本県熊本市東区小山2丁目25-17 グランレーヴ壱番館103号室
E-mail: kyuot2021@gmail.com

INDEX

学会長挨拶	1
祝 辞	2
参加者の皆さまへ	3
座長の皆さまへ	4
発表者の皆さまへ	4
優秀演題の表彰について	5
日 程 表	6
プログラム	8
抄 録	
基調講(響)演	12
教育講演1～3	16
学術講演	22
シンポジウム1・2	24
特別企画セミナー	34
九州作業療法士会会長会 MTDLP 企画	36
リーダー養成研修会	38
一般演題プログラム	42
組 織 図	52
広告・機器展示一覧	54
後援団体一覧	55
編集後記	56

学会長挨拶

「響創」

～作業療法が奏でる人・作業・環境のハーモニー～

九州作業療法学会2021 in 熊本

学会長 内田 正剛

(医療法人堀尾会
熊本託麻台リハビリテーション病院)



令和元年6月最初に開催された九州作業療法学会を今回は、火の国熊本にて開催致します。令和3年1月現在で10,350人(九州各県士会会員数の報告より)となった九州の作業療法士における日々の臨床の実践報告やデータ収集と分析の積み重ねによる研究の成果報告の場を熊本にて開催できること嬉しく思います。

今、目指す姿は「地域共生社会」です。これは、制度や分野などの関係を超えて、地域住民も主体的に参画し、人と人、人と資源が全世代でつながる地域社会であります。そのためには、一人ひとりの生きがいある暮らしと、地域の特色と活性化をともに創っていく「共創」が必要だと言われております。

作業療法とは、定義(日本作業療法士協会2018)によれば、「健康と幸福」「生活行為」「目的と価値」を考慮した対象者の「作業(活動と参加)」を保証することとなります。また、その作業は、作業療法の専門分野である発達、精神、身障、高齢の各領域共に“人と作業と環境”の兼ね合いにより決まります。如何に、それぞれを評価分析し、調整・工夫をするのか?作業療法士に問われていると思います。

今回、学会テーマは「響創」～作業療法が奏でる人・作業・環境のハーモニー～としました。来るべき社会への備えとして各分野が共創する令和(外務省訳: Beautiful Harmony)時代に作業療法の“人と作業と環境”のハーモニーを響かせ、新しい暮らしを創ってほしいと願いを込めて「響創」としております。各分野や領域を問わず、作業療法士が作業療法の実践検証について新しい発見を協議できる場にしたいと学術、教育講演やシンポジウムも企画・準備致しました。

コロナ禍であるため新しい生活様式としてオンライン開催とします。新しい環境に新しい作業様式(スタイル)を準備しております。皆さま、積極的に参加という適応をお願い申し上げます。

本学会内に作業療法の奏でるハーモニーが響き渡ることを期待しております。

最後になりますが、本学会の開催にあたり、ご理解とご協力を賜りました多くの関係者及び関係団体の皆様に感謝の意を表しますとともに、本学会がご参加頂いた皆様の活力や励みになり、さらなる新しい「競争」が生まれることを祈念致しております。

2021年2月吉日

祝 辞



一般社団法人 日本作業療法士協会
会 長 中村 春基

九州作業療法学会2021 in 熊本が「響創」～作業療法が奏でる人・作業・環境のハーモニー～のテーマで、内田正剛会長の下、開催されますことに心から敬意を表します。

本学会が開催されます頃のCOVID-19感染状況は予測できませんが、「WITH コロナ」の状況にあることは確かだと思います。改めて、愛する人、家族、知人などと別れを強いられた方々に心から哀悼の意を表しますと共に、いまだに療養中の方、そのご家族、後遺症で日常生活に支障をきたしている方々にお見舞い申し上げます。

COVID-19禍の生活を振り返りますと、不要不急の外出、三密(密集、密閉、密接)での行動自粛、リモートでの業務、研修会・講習会のWEB開催、臨床現場の混乱、生活様式・コミュニケーション方法の変化、コミュニティーの崩壊、経済の減速、教育環境の変化等、生活の隅から隅まで新しい生活を強いられています。

私の生活を振り返りましても、先に挙げた様々な社会情勢や生活の変化により、足腰は衰え、巣籠生活で体重は増加し、何とかしなければと焦りの日々が続いています。しかし、出張がほぼ無くなり(不活発になり)、移動にかかる時間、経費が縮減し、リモート業務により退社時間が早くなり、結婚以来はじめての6時には帰宅する生活になりました。そのお陰で余暇時間ができ、「般若心経」の写経やアコースティックギターを30年ぶりに再開しました。まさに65歳からの手習いです。

「人は作業をおこなうことで健康になれる」は、作業療法の骨幹を占める考えですが、病院や施設を退院・退所された、障害をお持ちの元患者・利用者の方々の在宅作業を考えた時、COVID-19禍の前後で当然違った行動様式になっていると思います。どうでしょうか？ そのように考えますと、病院、施設、在宅で提供する作業療法も当然変化していると思います。

本学会のテーマの下、COVID-19禍での作業療法について議論が深まることを期待しています。

MTDLPもまさに「響創」を誰もができるようにするためのツールと思います。しかし、MTDLPの事例報告30事例の目標を分析しますと、もともと作業の出来る人(響く人)を対象とした取り組みのみであったことが分かりました。私の経験ですと、一つの作業の成功体験により、次々とニーズが広がり作業の内容が変化していく方を多く見てきました。つまり、「響かない方」をどうして「響く人」に変えるかが作業療法士の専門家たる所以ではないかと思うのです。

本学会を通じて、真に患者・利用者の「響創」に基づく作業療法実践の起点となることを祈念しています。最後に本学会開催に当たりご支援いただきました関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。大会でお会いできることを楽しみにしています。

参加者の皆さまへ

1. 学会参加費について

(1) 作業療法士(○：加入 ×：未加入)

県士会	OT 協会		金 額
○	○	九州県内	6,000 円
		九州県外	7,000 円
×	○	九州県内	12,000 円
		九州県外	
○	×	九州県内	6,000 円
		九州県外	7,000 円
×	×	九州県内	20,000 円
		九州県外	

(2) 他職種等の参加費

	金 額
他職種	7,000 円
一 般	7,000 円
学 生	1,000 円

- 学生は OT 養成コース所属の方のみとします。免許取得者の学生(学部生・大学院生)の方は、会員 OT としての参加費をお支払いください。

2. 学会参加受付期間について

- 振込での申し込み : 5月1日(土)～6月11日(金) 正午まで
- クレジットカードでの申し込み : 5月1日(土)～6月29日(火) 正午まで

3. お問い合わせ先

学会期間中のお問い合わせ、およびご不明な点がございましたら九州作業療法学会 2021 事務局までお問い合わせください。

座長の皆さまへ

プログラムの進行に十分ご配慮いただきますよう宜しくお願いいたします。また発表の形式につきましては以下を参照していただき、円滑な進行となりますようご協力をお願いいたします。

発表者の皆さまへ

【利益相反の開示】

近年、多くの学会で利益相反 (Conflicts of Interest : COI) についての開示を義務づけるようになってきております。この状況に合わせ、九州作業療法学会2021でも、演題発表時に演題発表に関連する企業等とのCOIの有無および状態について申告することを以下に義務づけます。

【発表形式】

1. 発表方法

- 採択された演題抄録、および事前にご登録いただくポスターを2021年6月1日～30日まで学会上でWeb配信し、参加者から事前に質問を受付けます(6月1日～15日頃を予定)。
- ポスターの本文と演題名・所属・氏名は演者に作成いただきます。
- 学会会期は2021年6月19日～20日ですが、演題の発表は全て19日となります。
- 発表当日はZoomを使用したフラッシュトークを1分程度設けます。その後、事前に受付けた質問への回答や、座長や参加者との質疑応答をして頂きます。
- 発表は、Zoomアプリをインストールしたカメラ付きのパソコンにて行ってください。タブレット・スマートフォンを用いた発表はお控えをお願いします。
- 機材環境により、発表形式に変更がある場合があります。変更がある際は、改めて学会Hpに掲載すると共に、演題採択者へメールにてご連絡いたします。

2. ポスターサイズ

- ポスターサイズは全体(演者番号含む)：縦1,350mm×横850mm、本文：縦1,150mm×横850mmです。

3. 発表ポイント

- (一社)日本作業療法士協会会員の方は、学会参加により生涯教育基礎研修4ポイント、また筆頭演者はさらに2ポイントが付与されます。認定作業療法士の方は、更新要件の実践報告(25np)として登録できます。
- 演題採択後、①2021年度の九州各県士会会費の納入、②学会への参加申込、および学会参加費の支払い、③発表までをもって、本学会で発表した事とします。

優秀演題の表彰について

【審査対象】

本学会で採択された全ての演題を対象とします。

【審査方法】

一定の基準に基づいて学会準備委員会で厳正なる審議を行った後、学会長が最終的に決定いたします。

〈優秀演題表彰審査基準〉

- テーマや内容に創造性や独自性があり、作業療法の発展に貢献すると判断される。
- 作業療法の目的が適切であり、その目的が論理的プロセスを踏んで達成されている。
- 他の参加者が聞いて有効な発表内容である。
- 構成や表現などが優れている。

【発表・表彰】

受賞者の表彰は閉会式で行います。

日 程 表

1日目 2021年6月19日(土) 熊本テルサ

	第1会場 ZOOM	第2会場 ZOOM	第3会場 ZOOM	第4会場 ZOOM
9:30				
10:00				
10:15~11:45	10:15~11:45	10:15~11:45	10:15~11:45	10:15~11:45
11:00	演者受付	演者受付	演者受付	演者受付
11:50~12:00	11:50~会長挨拶	11:50~会長挨拶	11:50~会長挨拶	11:50~会長挨拶
12:00	12:00~12:50 セッション1 優秀演題発表 座長：山野 克明	12:00~12:50 セッション2 感染症関連 訪問C 座長：森 英輝	12:00~12:50 セッション3 MTDLP 座長：藤木 昭彦	12:00~12:50 セッション4 自動車運転 座長：宮本 健太
13:00	13:00~13:50 セッション5 地域1 座長：五十嵐 稔浩	13:00~13:50 セッション6 認知障害 座長：松浦 篤子	13:00~13:50 セッション7 神経難病 機器援助 座長：中島 雪彦	13:00~13:50 セッション8 高次脳機能障害 座長：宮城 大介
14:00	14:00~14:50 セッション9 地域2 座長：江原 加一	14:00~14:50 セッション10 精神障害1 座長：吉村 友希	14:00~14:50 セッション11 高齢期1 座長：安田 大典	14:00~14:50 セッション12 脳血管疾患1 座長：大塚 開成
15:00	15:00~15:50 セッション13 運動器疾患1 座長：亀尾 香珠代	15:00~15:50 セッション14 精神障害2 座長：山田 勝久	15:00~15:50 セッション15 高齢期2 座長：元田 真一	15:00~15:50 セッション16 脳血管疾患2 座長：宮本 忠司
16:00	16:00~16:50 セッション17 運動器疾患2 座長：山村 浩二	16:00~16:50 セッション18 発達障害 教育 座長：益満 美寿	16:00~16:50 セッション19 高齢期3 座長：山崎 孝文	16:00~16:50 セッション20 脳血管疾患 就労支援 座長：測野 浩二
17:00				

2日目 2021年6月20日 熊本テルサ

	第1会場 YouTube Live	第2会場 ZOOM	第3会場 ZOOM
9:30			
10:00	9:45～10:15 開会式		
11:00	10:30～11:30 基調講(響)演 これからの作業療法の未来 ～響きあい創造する力～ 講師：中村 春基 オーガナイザー：内田 正剛		
12:00	11:40～12:00 次期学会長挨拶	11:40～12:40 特別企画セミナー 夢をもって働こう！ ～わたしらしく輝くために～ 講師：茂木 有希子	
13:00	12:10～12:40 教育講演 1 やりたい作業の成功を可能にするアプローチ(CO-OP) 講師：東恩納 拓也 座長：松井 匠		
	12:50～13:20 教育講演 2 活動・参加のみかた ～作業を評価するポイント～ 講師：宮口 英樹 座長：高木 勝隆		
14:00	13:30～14:00 教育講演 3 最前線 運転と作業療法 講師：藤田 佳男 座長：今田 吉彦		13:30～16:30
	14:10～14:40 学術講演 脳科学と作業療法の響創 ～作業療法によって生じる脳の変化について考える～ 講師：村田 弓 座長：宮城 大介		リーダー養成研修会 県士会事業企画報告会 響創・共創・競争
15:00	14:50～15:50 シンポジウム 1 身の回りにいる気になる人の理解と対応 ～精神・発達・教育の分野から～ オーガナイザー：岩永 竜一郎 シンポジスト：岩根 達郎、増本 利信	14:50～16:50 九州作業療法士会会長会 MTDLP 企画 臨床実習指導で 教育ツールとして MTDLPを活用する方法 講師：小林 幸治	～九州はひとつ！ 人がつながる 士会活動を語ろう!!～
16:00	16:00～17:00 シンポジウム 2 介護ロボットと作業療法の響創 オーガナイザー：北島 栄二 シンポジスト：2018・2019年度 介護ロボットニーズ・ シーズ連携協調協議会 熊本協議会 神野 一剛、爲近 岳夫、大塚 開成		
17:00	17:00～ 閉会式		

プログラム

基調講(響)演 6月20日(日) 10:30～11:30

第1会場 (YouTube Live)

[これからの作業療法の未来 ～響きあい創造する力～]

オーガナイザー：

内田 正剛 一般社団法人 熊本県作業療法士会 会長
医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院

講師：

中村 春基 一般社団法人 日本作業療法士協会 会長

教育講演1 6月20日(日) 12:10～12:40

第1会場 (YouTube Live)

座長：松井 匠 (桜十字病院)

やりたい作業の成功を可能にするアプローチ (CO-OP)

東恩納 拓也 東京家政大学 健康科学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻
作業療法士 博士(医学) 特別支援教育士

教育講演2 6月20日(日) 12:50～13:20

第1会場 (YouTube Live)

座長：高木 勝隆 (熊本総合医療リハビリテーション学院)

活動・参加のみかた ～作業を評価するポイント～

宮口 英樹 広島大学大学院医系科学研究科 作業行動探索科学分野 教授

教育講演3 6月20日(日) 13:30～14:00

第1会場 (YouTube Live)

座長：今田 吉彦 (熊本機能病院)

最前線 運転と作業療法

藤田 佳男 千葉県立保健医療大学 リハビリテーション学科 作業療法学専攻

脳科学と作業療法の響創 ～作業療法によって生じる脳の変化について考える～

村田 弓 国立研究開発法人産業技術総合研究所 人間情報インタラクション研究部門
ニューロリハビリテーション研究グループ

[身の回りにいる気になる人の理解と対応 ～精神・発達・教育の分野から～]

オーガナイザー：

岩永 竜一郎 長崎大学 生命医科学域(保健学系) 教授
長崎大学 子どもの心の医療・教育センター 副センター長

シンポジスト：

岩根 達郎 京都府立洛南病院 リハビリテーションセンター
専門作業療法士(精神科急性期)／精神保健福祉士

増本 利信 九州ルーテル学院大学 准教授

[介護ロボットと作業療法の響創]

オーガナイザー：

北島 栄二 福岡国際医療福祉大学 医療学部 作業療法学科

シンポジスト：

2018・2019年度 介護ロボットニーズ・シーズ連携協調協議会 熊本協議会

神野 一剛 熊本託麻台リハビリテーション病院

爲近 岳夫 熊本保健科学大学

大塚 開成 九州中央リハビリテーション学院

夢をもって働こう！～わたしらしく輝くために～

茂木 有希子 埼玉県作業療法士会 副会長
株式会社ハート&アート 代表取締役

臨床実習指導で教育ツールとして MTDLP を活用する方法

講師：

小林 幸治 目白大学 保健医療学部 作業療法学科 准教授

県士会事業企画報告会

響創・共創・競争

～九州はひとつ！人がつながる士会活動を語ろう！！～

抄 録

これからの作業療法の未来 ～響きあい創造する力～

中村 春基

一般社団法人 日本作業療法士協会 会長

九州作業療法学会2021 in 熊本「響創」～作業療法が奏でる人・作業・環境のハーモニー～ が内田正剛学会長のもと開催されることを心から敬意を表します。コロナ禍での開催ではありますが、人・作業・環境ともに、新しい取り組みが必要な時と思います。本学会がその契機となることを願っています。

教育講演、シンポジウムのテーマを見ますと、脳科学、活動と参加、運転、主体性、対象者の広がり、介護ロボット等、これからの作業療法を考える上で、貴重な学びの機会となると思います。是非、私も皆様と時間と場を共有し、未来を「響創」して参りたいと思います。

講演では、事例と協会の活動を通して作業療法の未来について、私の考えを述べさせていただきます。

I：事例が最も大切

事例1は岐阜県在住、65歳、ギラン・バレー症候群の女性。発症後1月目に、経験1年目の作業療法士と理学療法士の治療に同行したが、まさに「寝かせきり」の状況で、関節可動域訓練のみを行う一方でゴールはADLの自立。しかも、発症してから1回も座位を取ったことが無いという。この作業療法はどうなっているのか・・・このような作業療法では未来はない・・・。人・作業・環境について養成校で学習しているはずだが・・・。そのような出会いから、フォローするようになった方である。

発症から2年と少し経過し、自宅の環境整備を行い、日中は独居の生活を送っている。現在、趣味の海外旅行への第一歩として、近くの観光地に一泊旅行をしてはどうかと、娘さんやご主人に働きかけている。COVID-19が無ければ実現できるのだが、終息するまでは、家庭内での活動維持を目標として支援中である。

事例2は関節リュウマチの女性、元の職場で担当した方で、退院後15年目の方である。年賀状での交流であったが、COVID-19を心配して、電話にて様子を聞いたりしている。家での生活をお聞きすると、お嫁さんは介護施設勤務、息子さんは病院のシンクの取り付け仕事ということで、感染予防の為に食事は自室で取り、外出は週1回のデイケアと月1回の外来受診、買い物もできるだけ人ごみの多い時間はさげ、必要最低限で済ませているとのこと。現在、千葉県に転居されたとのことで、COVID-19が落ち着いたら無事な姿を確認しに行こうと思っている。事例の話は尽きないが、作業療法を通しての支援は実に楽しい。これからの作業療法の未来～響きあい創造する力～の評価者は確実に患者、利用者、家族、地域であると考え。さて、皆様はどのように評価されていますでしょうか？

II：将来に向けた成果の紹介

- 1) 2021年介護報酬改定において、生活行為向上リハビリテーション加算の要件が見直されることとなった。介護給付費分科会で廃止論もなされた中において、正に、逆転ホームランである。これは、今まで地道に取り組みされたきた会員の取り組みがあればこそその成果である。改めて、協会介護報酬委員会および、多くの資料提供を頂いた会員の皆様に心から御礼申し上げる。「種」は再び蒔いた。MTDLPでの取り組みで「畑」も耕した。いよいよその果実を国民に示さなければならない。心身機能、活動と参加のバランスの取れた作業療法の提供は必須である。
- 2) 訪問看護ステーションでの人員配置においては、多くの会員の方々からご署名を頂き心から感謝申し上げます。ご存じの通り、配置要件は看護体制強化加算を算定する事業所に限定されることとなり、8万人と予想されたりハビリテーション難民を出さずに済んだ。今後もこのような提案がなされないよう、利用者側に立った地域リハビリテーションの在り方について提案していきたい。

Ⅲ：協会組織の再編成

協会は国へ提言を行い、会員の地位向上と国民の健康と幸福に寄与することが責務である。国の動きを見ると、介護報酬、診療報酬改定の基礎となる資料は、少なくとも2年前から準備され提案されていると感じる。そのように考えると、協会の活動はその1年前には動き出しておかないと取り残されてしまう。そのような、動きに対応するため協会組織の改編を行い、活動・参加、環境への対応を更に充実させていく。

2023年からは順次協会事務局内で各部長を専従雇用し、迅速柔軟な決定と活動を推進する体制を整備していく予定である。これと並行して、士会員＝協会員を実現させ士会活動を人材育成、渉外活動に傾注できる体制を構築して参りたい。

Ⅳ：中長期の取り組み

2020年から養成教育の新カリキュラムが施行されていますが、2025年には再度カリキュラム検討委員会が開催されることが決まっている。協会としては、修業年限4年以上にすること、研修の義務化等についての提案を検討している。また、研修の義務化については、現行の生涯教育制度の見直しが必要と考えている。士会、会員の協力無しでは実現不可能であり、今後検討を加速させていきたい。2020年度の協会活動はコロナ禍の中、受け身の活動に終始したが、2021年度は未来を見据えた活動の元年としたい。

最後に、九州作業療法学会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念している。



略 歴

昭和52年(1977)3月	国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院 卒業
昭和52年(1977)4月	兵庫県社会福祉事業団玉津福祉センター附属中央病院
昭和59年(1984)4月	国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院
平成6年(1994)4月	兵庫県立総合リハビリテーションセンター中央病院
平成18年(2006)4月	兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター リハビリテーション西播磨病院 リハビリ療法部部长
平成22年(2010)4月	兵庫県立リハビリテーション中央病院 リハビリ療法部部长
平成27年(2015)4月	一般社団法人日本作業療法士協会 会長(常勤役員)

受賞歴

平成17年(2005)	厚生労働大臣 表彰
-------------	-----------

一般社団法人日本作業療法士協会活動

昭和60年8月(1985)～平成1年7月	理事
平成1年8月(1989)～平成13年7月	常務理事
平成13年6月(2001)～平成21年6月	副会長
平成21年6月(2009)～現在	会長

社会的活動

一般社団法人日本作業療法士協会(会長)、チーム医療推進協議会(副代表)、リハビリテーション機能評価機構(理事)、公益財団法人国際医療技術交流財団(評議員)、一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団(評議員)、公益財団法人訪問看護財団評議員、公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会理事、公益社団法人日本脳卒中協会理事、日本訪問リハビリテーション協会(監事)等

著 書

脳卒中の在宅リハビリテーション(編集責任者)、作業療法各論・義手(リハビリテーション医学全書)、障害筋骨格系理学療法(系統理学療法)、義肢道具学(理学療法テキスト)、理学療法 MOOK 義肢装具・義肢、作業療法のとらえかた(糖尿病に対する作業療法)

オーガナイザー

これからの作業療法の未来 ～響きあい創造する力～

内田 正剛

一般社団法人 熊本県作業療法士会 会長
医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院



学 歴

平成3年(1991)3月 長崎大学医療技術短期大学部 作業療学科 卒業
平成24年(2012)3月 熊本保健科学大学大学院 保健科学研究科保健科学専攻
修士取得

職 歴

平成3年(1991)4月 医療法人 智仁会 佐賀リハビリテーション病院 (現名称)
平成6年(1994)5月 医療法人 相生会 にしくまもと病院
平成16年(2004)5月 有限会社 熊本住まいづくり研究所
株式会社 くますま へ 社名変更(平成22年12月)
令和2年(2020)4月 医療法人 堀尾会 入職

主な委員・社会的活動

一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会 理事(平成26年～)
一般財団法人 訪問リハビリテーション振興財団 研修班 委員
一般社団法人 日本作業療法士協会 代議員(平成27年～)
熊本県地域リハビリテーション推進会議 委員(平成27年～)
熊本市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 策定委員(平成29年～)

など

執 筆

レクリエーション 第3版 共著 2021 三輪書店
作業療法管理学入門 共著 2018 医歯薬出版株式会社
災害リハビリテーション標準テキスト 共著 2018 医歯薬出版株式会社
新版 訪問リハビリテーション実践テキスト 共著 2016 青海社
テクニカルエイドー生活の視点で役立つ選び方・使い方 共著 2012 三輪書店

など



A series of horizontal lines for writing, consisting of a solid top line followed by multiple dashed lines.

やりたい作業の成功を可能にする アプローチ (CO-OP)

東恩納 拓也

東京家政大学 健康科学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻
作業療法士 博士(医学) 特別支援教育士

子どもたちは日常生活の中で日々様々な運動スキルや新しい課題に直面する。子どもたちの中には練習すれば容易に新しい運動スキルを獲得できる子もいるが、新しい運動スキルを学習することが難しく、過度な努力と時間を費やし、それでも上手くできずに自信を失ってしまっている子どもたちもいる。発達性協調運動症 (Developmental Coordination Disorder : DCD) はこのような子どもたちの多くにみられる神経発達症の一つであり、協調運動技能の獲得や遂行に障害を持ち、その障害により日常生活に支障をきたしている状態を指す。

CO-OP (Cognitive Orientation to daily Occupational Performance) アプローチは、新しい運動スキルの学習に困難さを持つ子どもたちのために、カナダの作業療法士である Helene Polatajko らによって開発されたアプローチである。現在、DCD の国際的な診療リコメンデーションにおいて高い推奨レベルに位置付けられている。CO-OP アプローチは、「クライアント中心」「遂行ベース」「問題解決」を中心原理とし、戦略の使用やガイドされた発見を通してスキル獲得を可能にするアプローチである。つまり、ただ繰り返し練習させるのではなく、子どもたち自身が戦略を立てながら課題に取り組み、遂行の質を高め、新しいスキルの獲得を可能にするものである。CO-OP アプローチの目的は4つあり、それは、①スキルの獲得、②戦略の使用、③般化、④転移の4つである。そして、それぞれの目的に対応するように7つの特徴を持つ。それは、①クライアントが選んだゴール、②ダイナミック遂行分析、③認知戦略の使用、④ガイドされた発見、⑤可能化の原理、⑥親や重要他者の参加、⑦介入形態である。CO-OP アプローチは、これまでの多様な実践により、脳性麻痺、アスペルガー症候群、注意欠如多動症、ダウン症候群、後天性脳損傷、脳卒中を呈する対象者においても効果が報告されている。運動面の問題を持つ子どもたちに対しては他にも様々なアプローチが用いられており、CO-OP アプローチはあくまで介入方法の一つに過ぎない。しかし、私たち作業療法士は多様性のある子どもたち一人ひとりに合わせた介入ができるよう、従来のやり方に固執せず自身のアプローチ方法にバリエーションを持つことが必要である。その上で、CO-OP アプローチは高いエビデンスレベルが示され、作業療法との親和性も高いアプローチであるため、今後国内で CO-OP アプローチを実践する作業療法士が増え、実践を蓄積していくことが必要といえる。

本講演では、DCD を含めた運動面の問題を持つ子どもたちの特性を踏まえた上で、CO-OP アプローチの概要、実践例についてお伝えし、子どもたちに対するより良い支援を考える場を提供したい。



学 歴

- 2014年 長崎大学医学部 保健学科作業療法学専攻 卒業
2016年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻修了 修士(作業療法学)
2020年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻修了 博士(医学)

職 歴

- 2014年4月～2016年3月 国立病院機構長崎病院
2016年4月～2021年3月 みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家
2021年4月～現在 東京家政大学 健康科学部リハビリテーション学科
作業療法学専攻

主に重症心身障害児者や神経発達症児へのリハビリテーションに従事している。
研究では、日本の神経発達症児における協調運動障害をテーマに、論文執筆、国内及び国際学会での発表を行っている。
運動が苦手な子どもたちとその家族へ対する地域支援活動を立ち上げ、運動を通じた様々な実践、研究も行っている。

社会的活動

日本発達系作業療法学会 幹事

著 書

- ・「家庭で育てる発達が気になる子の実行機能」(共著・中央法規出版)
- ・「臨床作業療法 NOVA イラストでわかる生活動作と読み書き支援」(共著・青海社) など

活動・参加のみかた ～作業を評価するポイント～

宮口 英樹

広島大学大学院医系科学研究科 作業行動探索科学分野 教授

「作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す」、2018年に改訂された日本作業療法士協会の定義である。定義改訂の背景には、2000年代から介護保険施行、ICFの公表、地域包括ケアシステムの構築と多様化する作業療法の職能を表現する必要性が生じてきた変遷がある。

新定義の特徴の一つは、目的に健康とともに「幸福」が謳われていることである。作業療法では、重度の障害によって社会参加が得られにくい場合でも、その人らしい幸福やQOLを追求することは可能とする考え方がある。このような考え方に共感できることは素晴らしいことだと思う。幸福を私たちがどのように捉えて作業療法を展開するかは、活動と参加を活用するためのキーワードになるだろう。教育講演の一つは、健康と幸福を目的とした活動・参加に資する作業療法の方法について述べる。

2008年から開発されてきた生活行為向上マネジメントは、10年の年月を経て多くの作業療法士に周知された。しかしながら、生活行為マネジメントの事例登録件数は伸びていない。その理由の一つとして、合格率の低さがある。この数年のおおよそ合格率は13%前後で推移している。作業に焦点を当てた治療、指導、援助は知ってはいるが、介入は出来ていないのが現状である。本来の作業療法が提供出来ていない、危機的状況にあると言っても過言ではないだろう。演者も含めた養成教育における責任も大きいと考える。どのように作業を評価し、介入成果を表現するかにかかっている。

新定義の根幹には、介入手段として、「人-環境-作業」モデルが想定されている。作業に焦点を当てた治療、指導、援助を行う重要なポイントはICFの活用である。第4レベルまでの分類を用いると1,400を超える項目があり、どの項目を選択するかは生活を構成する要素を心身機能・活動・参加としてどのレベルまでイメージ出来ているにかかっている。ICFを使いこなすのは時間と労力が必要となるが、作業療法士にとっては大きな力となりうると確信している。課題は、心身機能・構造と活動、参加が連動していないことだと考える。活動・参加からトップダウンで介入を探る方法が強すぎると、疾患や障害の比重が少なくなる。また、心身機能・構造から思考すると生活が見えにくくなる。提唱したいのは、相互作用という関係である。両者を紡ぐのは、心身機能・構造を包括的に捉え、人間そのものの理解をする視点である。

作業療法の議論の主体は、あくまで対象者の主観的な世界の理解である。神経現象学という分野が示すような世界は作業療法にとって有効な手段となる。また、活動に伴うリスクの理解も重要である。安全と安心という言葉は並立に用いられることが多いが、作業療法では分けて考えたい。活動は安全に出来ても、対象者が安心しては限らない。

環境は、それぞれの立場によってイメージが異なる。環境は、単に家庭や職場だけではない。私たちが生活する環境は、常に経済や技術進歩によって変化する。感染症、携帯電話、AIの技術進歩による仕事の変化等に我々は常に適応していかなければいけない。それが人間の特性でもある。SDGsの掲げる目標やSociety 5.0の時代にも適応できる作業療法を考えておく必要がある。



略 歴

- 1986年 同志社大学文学部 社会学科社会福祉学専攻 卒業
- 1989年 国立善通寺病院附属リハビリテーション学院 作業療法学科 卒業
- 1989年 奈良県心身障害者リハビリテーションセンター
- 2000年 広島県立保健福祉大学 作業療法学科 専任講師
- 2004年 広島大学大学院保健学研究科 教授
- 2010年～ 広島市立広島特別支援学校 特別非常勤講師
学位：保健学修士、博士（保健学）
- 2019年 現職 医学部長補佐

作業療法士協会関連

(社)日本作業療法士協会 副会長(学術部部长兼務、研究倫理審査委員会委員長兼務)

業績(著書・訳書)

- ・「パーキンソン病はこうすれば変わる」(編著)三輪書店
- ・「不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング」(編著)三輪書店
- ・「改訂第2版認知症をもつひとへの作業療法アプローチ」(監修、分担)
メディカルビュー社
- ・「社会面のコグトレ 認知ソーシャルトレーニング1段階式感情トレーニング/
危険予知トレーニング編」等 24冊

学会等活動

第5回日本認知運動療法学術大会大会、第11回広島県作業療法学会会長、
日本予防医学リスクマネジメント学会第1回医療安全国際フォーラム国際広報委員長、
リレー・フォーライフ in 広島2009 副実行委員長、第52回日本作業療法学会 学会長 等

産学連携

(株)ブローバホールディングスとの協同研究事業「アミューズメント機器を活用した介護
予防ヒューマンコミュニケーション方法の検証および機器開発」(1,000万円, 2015-2017)
(株)かなえるリンクとの共同研究事業「パーキンソン病に対する作業療法の効果に関
する研究」(240万円, 2017-2019) 等

その他

Guest Associate Editor of the Frontiers Research Topic "Translational Research of
Occupational Therapy and Neurorehabilitation"
広島県高次脳機能障害連絡協議会委員、広島県高次脳機能障害連絡協議会県立施設機能
強化検討WG 座長、文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムレフェリー、
文部科学省大学設置分科会リハビリテーション専門委員会委員(2016年度～2019年度) 等

最前線 運転と作業療法

藤田 佳男

千葉県立保健医療大学 リハビリテーション学科 作業療法学専攻

(一社)日本作業療法士協会の調査によると、運転に関わる作業療法士は近年大幅に増加し、4,200人(700施設)以上が関与している。そのほとんどは医療関連施設に属しており、さまざまな制限のなかで運転に関わっている。しかし、医療費は今後も削減されることは必至であり、運転に関する部分も例外ではないと考えられる。そのなかで、この分野をどのように発展させていくかを考えることは重要な課題である。本邦での自動車運転に関する支援は、障害者福祉や自立支援から始まったが、2000年代後半から医療分野での取り組みが急激に増加し現在に至っている。運転支援の先進国かつ、ビジネスとして成立している北米等では、医療を含めた保険の部分は非常に少なく、職業リハや労災(主に退役軍人)などの障害者福祉と自費医療が運転に関するリハビリテーションの主な領域である。これらを考慮すると、運転に関する作業療法士の今後の役割は、「評価・訓練」も重要だが「指導・教育」の視点を重視していくことが望ましいのではないかと考えられる。

自動車運転は最も課題難易度の高いIADLの一つであるが、作業療法士はさまざまなIADLの自立ニーズを持つ対象者に情報収集や観察を通して支援を行ってきた。自動車運転に関する支援は医療分野で発展したため、我々は豊富な知見や情報を得ることができた。現在、日本は共生社会の創生に向け、高齢者を含むさまざまな対象者が地域で暮らし続ける社会に向かっているが、同時にその運転適性の問題や自動車の運転以外の交通手段の問題が社会的な課題となっている。この問題に対し、我々は医療分野内でのさらなる広い領域での貢献、および医療分野以外での貢献を推進することが重要である。

今後、高齢運転者の限定免許や超小型モビリティの活用等の制度改正が準備されている。われわれは自動車の運転を含む地域での移動について、対象者を①免許を取得して時間が経過した運転者、②感覚・運動機能が低下した者、③認知機能が低下した者、④病気や障害を持ちつつ生活する者(薬剤の影響を含む)、という視点でとらえ、さらにその交通環境を考慮した上での「指導・教育」を行うことが、対象者の移動の自由と地域の交通安全を護る「運転と作業療法」の価値ではないかと考えている。



略 歴

京都市出身。

大学卒業後、制御機器メーカーに就職し工場を中心とした営業を行う。ふとしたきっかけで作業療法に興味を持ち国立療養所犀潟病院リハビリテーション学院に29歳で入学する。卒業後大型トラックの運転手を經由して埼玉みさと総合リハビリテーション病院で7年間主に脳損傷者に関わり、2003年頃から運転リハビリテーションに取り組む。様々な神経心理検査と実車指導を通して、院内で出来る簡便な運転適性評価法の必要性を感じ、有効視野概念を用いた抑制課題付き有効視野測定法 (Visual Field with Inhibitory Tasks : VFIT) を開発する。その後、フリーランスの作業療法士として、東京大学先端科学技術センター (e-AT 利用促進協会)、国立リハセンター研究所、昭和大学医学部精神科、世田谷区立総合福祉センター、葛飾区役所等の様々な施設で働きつつ筑波大学大学院で有効視野や運転に関する研究を行う。

2010年より目白大学保健医療学部教員となり、2012年博士 (リハビリテーション科学・筑波大学) の学位を授与される。その後、NEXCO 東日本と逆走について、埼玉県警や損保ジャパン RM 社と高齢運転者について共同研究を行う。さらに運転について知識を深めたいと考え、教習指導員資格 (普通) を2014年に取得する (埼玉県公安委員会)。

現在は千葉県立保健医療大学リハビリテーション学科作業療法学専攻准教授 / 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、日本作業療法士協会運転と作業療法特設委員会委員長、運転と作業療法研究会代表、米国運転リハビリ専門家協会会員。著書は「作業療法とドライブマネジメント」(共著)等。

脳科学と作業療法の響創 ～作業療法によって生じる脳の変化について考える～

村田 弓

国立研究開発法人産業技術総合研究所 人間情報インタラクション研究部門
ニューロリハビリテーション研究グループ

作業療法は身体や心、さらに周囲の環境などに対して多様なアプローチを使用し、傷ついた心身を回復に向かわせることだと考えられます。しかし、作業療法で行われる介入方法については、心身に与える効果や影響が明らかになっていない部分が多く残されています。

私たちのグループでは、リハビリで行われる介入方法について、その効果と影響を脳科学の面から明らかにすることを目標に研究を行っています。脳内の変化を詳しく知るために、あえて人ではなく、動物モデルを使用して研究を行っています。

1996年に、Nudoらによって損傷を受けた成体(大人)の動物の脳が運動によって変化し、機能回復が起こるという研究結果が報告されました。それまで大人(成体)の脳は変わらず、脳に損傷を受けた場合は、脳はダメージを受けたまま、変化することは無いと考えられていたため、予想外の結果に大きな反響がありました。この報告をきっかけにリハビリによる脳の変化を調べる研究が多く行われるようになりました。

これまでの私たちの研究の結果、サルの第一次運動野(M1)に損傷を作成した後、指先で小さなものをつまむという把握運動のトレーニングを行った群では、把握運動トレーニングを行わない群と比較して、把握機能の回復が良いことが分かりました。また、この把握機能の回復には、損傷半球の運動前野腹側部(PMv)といわれる脳領域が重要な役割を担っていることが分かってきました。

近年、脳卒中や頭部外傷などの脳損傷後の機能回復には、脳内で起こる神経の「活動依存的な可塑的变化(activity-dependent plasticity)」が重要と考えられています。可塑的变化とは、ここでは、「粘土のように外からの刺激によって形が変わり、その形が変わったままの状態が続く」ということです。脳損傷後のトレーニングにより、脳の活動依存的な可塑的变化が起こります。つまり、運動などの活動をすればするほど脳内の神経細胞の活動が高まります。それにより神経細胞が活性化して、神経細胞同士の新しいネットワークが作られたり元々あったネットワークが強化されたりすることで、失われた機能の代償(肩代わり)が起こり、機能回復が促進されるのではないかと考えられます。作業療法で行われる様々な活動もその一つ一つが脳の神経細胞の活動を高め、脳内の神経細胞をよりよく活動させているのではないかと考えられます。

本研究の結果は、臨床の作業療法とは手法や視点が違っており、臨床に結果を直接当てはめることは難しいですが、臨床で起こっていることを理解するために役立つのではないかと考えられます。



略 歴

- 2003年3月 茨城県立医療大学 保健医療学部 作業療法学科 卒業
2008年3月 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 修了(博士(神経科学)取得)
2008年4月 日本学術振興会特別研究員(PD)
2012年4月 産業技術総合研究所 ヒューマンライフテクノロジー研究部門 研究員
2017年4月 産業技術総合研究所 人間情報研究部門 主任研究員

著書(解説記事等)

- 「運動」と「脳の可塑的变化」—動物モデルによる脳損傷後の機能回復メカニズム解明への試み(特集 作業療法のための最新脳科学入門), 村田弓, 作業療法ジャーナル, 44(4), 285-291, 2010年
- ニューロリハビリテーション, 道免和久著(担当:分担執筆, 2章 4 最近の基礎研究), 医学書院, 2015年
- 【上肢・手の機能と作業療法—子どもから大人まで】(第1章)上肢・手の機能と作業療法 神経科学 成人 手の運動を担う大脳皮質の構造と機能, 村田弓, 肥後範行, 作業療法ジャーナル, 51(8) 643-646, 2017年

研究室ホームページ <https://unit.aist.go.jp/hiiri/nrehr/>

オーガナイザー

身の回りにいる気になる人の理解と対応 ～精神・発達・教育の分野から～

岩永 竜一郎

長崎大学 生命医科学域(保健学系) 教授
長崎大学 子どもの心の医療・教育センター 副センター長

発達障害者支援法によれば、発達障害とは「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」とされている。何らかの脳機能の障害によって、対人関係、行動、学習などに問題が生じている状態を指すことが多い。学習障害(LD)は知能が正常域にも関わらず、読字、書字、計算などの学習の一部に著しい困難が生じている状態であり、注意欠如・多動症(ADHD)は多動、衝動性、注意の欠如が顕著である状態、自閉スペクトラム症(ASD)は対人関係の問題や限局された行動や興味が見られる状態である。発達障害の問題は見た目ではわかりにくいこともあり、これまで発達障害児は性格の問題、わがまま、学習の怠慢などととらえられることも少なくなかった。そして、周囲の大人が強く叱責されたり、同級生からいじめられるなど、周囲から不適切な対応を受ける発達障害児が多かった。そのようなこともあり、発達障害児の中には、2次障害が起こっている子どもが多い。例えば、不登校、引きこもりなどの問題が起こっている例は多かった。併存症が高頻度に見られることも知られており、気分障害や不安症、物質関連障害などを伴う発達障害児者が多く存在する。

近年、発達障害児者が作業療法の対象になることは多いであろう。児童期の作業療法領域では、すでに20年以上前からASD児が増え続けているし、成人期の精神科作業療法でも発達障害者が対象となることが増えているであろう。LDは約5%、ADHDは約7.2%、ASDは約2.5%の子どもに見られることが報告されていることから、作業療法の対象となることが増えていることは理解できる。そして、近年、発達性協調運動症(DCD)のある子どもが児童期の作業療法の対象として増えている。このような状況から、発達障害児に対する作業療法の重要性が増していると言える。

本シンポジウムでは、それぞれの発達障害の特徴と支援について紹介したい。



学歴・学位

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科(博士課程) 修了
医学博士

職歴

1989年6月～1998年3月	長崎県立心身障害児療育指導センター 作業療法士
1998年4月～2001年3月	茨城県立医療大学作業療法学科 助手 茨城県立医療大学附属病院 作業療法士兼任
2001年4月～2004年3月	長崎大学医学部保健学科作業療法学専攻 助手
2004年4月～	長崎大学医学部保健学科作業療法学専攻 助教授
2006年4月～	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻 理学・作業療法学講座 准教授
2016年10月～	長崎大学子どもの心の医療・教育センター 副センター長
2016年12月～	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻 リハビリテーション科学講座 教授 長崎大学生命医科学域 教授

資格等

作業療法士
認定作業療法士(作業療法士協会認定)
感覚統合認定講師(日本感覚統合学会認定)
特別支援教育士スーパーバイザー(LD学会認定)
自閉症スペクトラム支援士エキスパート
公認心理師

その他

長崎県発達障害者支援センター連絡協議会 委員
発達障害専門指導監(労働局)
日本感覚統合学会 理事
日本発達系作業療法学会 理事
日本DCD学会 理事

著書など

- ・ 岩永竜一郎：自閉症スペクトラムの子どもの感覚・運動の問題への対処法。東京書籍, 2014
- ・ 岩永竜一郎：DVD 自閉症スペクトラム児者の感覚処理障害と対応。新宿スタジオ, 2010
- ・ 岩永竜一郎：感覚・動作アセスメント。LEDEX, 2018

身の回りにいる気になる人の理解と対応 ～精神・発達・教育の分野から～

岩根 達郎

京都府立洛南病院 リハビリテーションセンター
専門作業療法士(精神科急性期) / 精神保健福祉士

生きづらさのある人の理解と対応

精神科臨床で仕事をしていると、様々な疾患や障害のある人とお会いする。精神科という枠組みでお会いすると、どうしてもその人の精神疾患や精神症状、精神障害による困難さ、そこに関連した事象へ無意識に視点が向くことは事実である。「統合失調症の〇〇さん」のように、病名ありきで作業療法の関与が開始することはないだろうか。確かに最良で効果的な作業療法を提供するためには、初回のお顔合わせ前にカルテや他職種からの情報収集を省くことは許されない。しかし、疾患名ありきの状態のために見えなくなることはないだろうか、私たちの感受性が低下することはないだろうか。「統合失調症だから〇〇」と病理だけでは本来理解することができるはずもない本人の思いを、「妄想だから」とわかったふりをしてないだろうか。その人を理解するという事は容易なことではないし、丁寧な思考と真摯な共感的姿勢も必要となる。また、容易ではないという意識も必要だし、容易でなくさせていることがどのようなものなのかという知識も必要となる。

ご存知の通り、病気や症状、あるいは障害や状態と呼ばれるものだけが対象者の今を表すものではない。これまでの人生の歩みによって、その人の経験によって、その人が存在しているのである。その人を目の前にしたとき、その人がこれまでの人生で歩んできた果てしない道のりに思いを馳せることが必要である。

その道のりには様々なこと(虐待、いじめ、トラウマ、逆境的小児期体験(Adverse Childhood Experiences)、貧困、ひきこもり、不登校、非行、触法、依存、自傷など)があったかもしれない、今も続いている状態(発達障害、摂食障害、性的マイノリティなど)があるのかもしれない。これらの経験や状態は全か無で示されるものは少ないし、連続性であり、経験を自覚できない人も多い。このような経験や状態があると、人はどのような感覚になるのだろうか?あるいは、人の行動や振る舞いにどのような影響を与えるのだろうか?

先に述べたように、これまでの人生の歩みによって、その人の経験によって、その人が存在している。これは、特別なことではなく普遍的のものであり、連続性がある。私やあなたを含め、実は私たちも自分の生きづらさに気づいていないのかもしれない。シンポジウムでは事例から様々な経験と共に生きる人の、生きづらさの理解と対応について考える機会としたい。

【Reference】

- 榎屋二郎：非行を起こした少年達への支援において大切な視点 ―発達とトラウマ―。トラウマティック・ストレス 18(1)：30-37, 2020.
- 岩田歩子, 野崎章子, 舘祥平：セクシュアルマイノリティの生きづらさと性教育に対するニーズ調査。日本性科学会雑誌 35(1)：37-44, 2017.
- 佐々木淑子：生きづらさを抱える子を理解するために ―発達障がい児の心の世界―。薬学図書館 59(2)：100-103, 2014.
- 岡部卓：貧困問題をどうとらえ、立ち向かうか。精神保健福祉 41(4)：266-270, 2010.
- Donna Jackson Nakazawa, 清水由貴子(訳)。小児期トラウマがもたらす病 ―ACEの実態と対策。パンローリング株式会社。2018.
- エドワード・J・カンツィアン, マーク・J・アルバニーズ(著), 松本俊彦(訳)。人はなぜ依存症になるのか。星和書店, 2013.



学 歴

2000年 藍野医療福祉専門学校作業療法学科 卒業
2011年 佛教大学社会福祉学部 卒業
2019年 信州大学大学院医学系研究科 入学
現在在学中

職 歴

1996年 (株)ベリープロジェクト 入職
2000年 医療法人恒昭会藍野花園病院 入職
2005年 京都府立洛南病院 入職
現在に至る

現在のフィールドや関心ごと

精神科救急(日本精神科救急学会理事、専門作業療法士)
精神科デイケア
就労支援(山城北圏域自立支援協議会就労部会)
DPAT インストラクター(災害派遣精神医療チーム：Disaster Psychiatric Assistance Team)
認知機能リハビリテーション(CEPD 研究会理事)
精神障害者フットサル(日本ソーシャルフットボール協会地域推進委員統括)
精神障害者バスケットボール(日本ソーシャルバスケットボール協会地域推進委員)
まちづくり
医療観察法
WRAP(WRAP®)ファシリテーター：男前) など

著 書

- 『精神科作業療法の理論と技術』(共著) メジカルビュー社, 2018年
- 『標準作業療法学 精神機能作業療法学第3版』(共著) 医学書院, 2020年
- 『精神科臨床とリカバリー支援のための認知リハビリテーション』(共著) 北大路書房, 2020年

身の回りにいる気になる人の理解と対応 ～精神・発達・教育の分野から～

増本 利信

九州ルーテル学院大学 准教授

教室には少し気になる子どもたちが多く在籍している。

「落ち着きがなく、座席を離れてしまう子ども」

「休み時間になると周りトラブルになる子ども」

「いつも身の回りが乱雑で片付かない子ども」などの姿を作業療法士も学校巡回などにおいて、目にされてきたことであろう。

周知のように、通常学級に在籍している児童の6.5%に、学習面や行動面で困難さがあることが指摘されてきた。教室の状況を思い起こすと、この数値は少し控えめなのではないかと思うほど、現在の通常学級には少し気になる子どもたちの姿が見える。

小枝らは、学習障害診断のある児童生徒のうち2割程度に不登校のリスクがあることを指摘した。「学校に行かない」という選択をする子どもたちの背景については、友人関係を含む社会的な不適応感や、家庭環境の影響が指摘されることも多いが、平素の学習活動における不全感が影響していることも少なくないことが予想される。

しかし、学習における不全感をストレートに訴える子どもと出会うことは稀である。多くはひとり静かに机上で困っていたり、反復練習に代表される懸命な努力を重ねたりして授業時間を過ごしている。音声によるやりとりは円滑であったり、係活動はきちんとこなしたりすることで、教師の気づきが遅れることも少なくない。人の数倍の努力を重ね、不安ながらも学校適応を目指してきた子どもたちが、くたびれて根をあげている姿を不登校と考えると、我々支援者の関わりには「学習習得の支援」が重要であることは自明である。加えて、冒頭に挙げた行動面の問題と捉えられがちな行動の背景にも、指示を聞いたり、自分の思いを伝えたりすることの苦手さや、文章の内容理解の苦手さがある可能性もあることも推測される。教室には、正確な評価で適切に理解され、本人のニーズにマッチした支援を待ち望んでいる子どもが相当数いることを忘れてはならない。

筆者はこれまで小学校におけるLD、ADHD等の通級指導教室担当として、学習や行動で苦戦している子どもたちの評価と支援にあたってきた。

本話題提供においては、まず学習習得の指標である「学力」を支える学業的スキルと認知能力等の関連について整理し、学習障害をはじめとした発達障害を有する児童生徒の困りの特徴を整理したい。

次に、学習障害の代表的な症例である読み書き困難について、認知機能と関連したつまずきの様相と具体的な支援のあり方について事例を元に提示したいと考える。

また、苦手な基礎的スキルを向上することにより改善を図るボトムアップ志向の指導及び、社会適応を意図した支援ツールの積極的活用などに代表されるトップダウン志向の指導について、教育現場の実際を提示したい。

最後に、学校現場で取り入れられることが増えているRTI(Response to Intervention)モデルによる早期介入について、最新のアセスメントの紹介を含めて整理したいと考えている。



学 歴

1992年 兵庫教育大学 学校教育学部 生活健康系保健体育コース 卒業
2019年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻課程 卒業
現在 長崎大学大学院医療科学専攻 博士課程在学中(岩永竜一郎研究室)

職 歴

1992年～2020年3月 長崎県教員 小学校・特別支援学校
2020年4月～ 九州ルーテル学院大学 人文学部心理臨床学科
大学院人文学研究科 障害心理学専攻 准教授

資格 他

公認心理師
特別支援教育士 SV
日本LD学会理事
特別支援教育士資格認定協会理事
臨床発達心理士
一般社団法人 視覚機能研究会公認 ビジョントレーニングインストラクター

著書(分担執筆)

- LD & ADHD&ASD. 明治図書
- 児童心理. 金子書房
- 特別支援教育の実践情報. 明治図書
- 特別支援教育コーディネーターのための実践・新学習指導要領. 教育開発研究所
- ちょっと先輩が教えるうまくいく仕事のコツ. 教育開発研究所
- ズバッと解決ファイルネクストレーベル. 金子書房
- 実践障害児教育. 学研 他

介護ロボットと作業療法の響創

北島 栄二

福岡国際医療福祉大学 医療学部 作業療法学科

介護ロボット開発における作業療法士の活躍

介護ロボットの開発・普及に向けた我が国のこれまでの取り組み

我が国の高齢化は、世界に例をみない速度で進行しており、介護人材不足が大きな課題となっています。介護分野の人材を確保する一方で、限られたマンパワーを有効に活用する必要があります。課題解決へ向けた政府の方針は、「ロボット新戦略(平成27年2月10日日本経済再生本部決定)」や「未来投資戦略2017(平成29年6月9日閣議決定)」において、現場のニーズに即した実用性の高い介護ロボットの開発、介護ロボットによる生活の質の維持・向上、介護者の負担軽減を目指すことなどが示されてきました。

介護ロボットとは、ロボット技術(センサー系、知能・制御系、駆動系要素技術)が応用された、利用者の自立支援や介護者の負担の軽減に役立つ介護機器です。さらに厚生労働省と経済産業省は、自立支援による高齢者の生活の質の維持・向上と介護者の負担軽減の両方の実現を図るため、「ロボット技術の介護利用における重点分野」にて6分野13項目を示しています。

「介護ロボット開発等加速化事業」における 「ニーズ・シーズ連携協調のための協議会設置事業」の概要

介護現場のニーズに即した実用性の高い介護ロボットの導入を推進するためには、介護ロボットを導入する介護施設等において、解決すべき課題(ニーズ)を明らかにし、それを解決するための要素技術(シーズ)とマッチングさせた介護ロボットの開発が促進されることが重要です。

厚生労働省が実施した「介護ロボット開発等加速化事業」では、①福祉用具・介護ロボット実用化支援事業、②ニーズ・シーズ連携協調のための協議会設置事業、③介護ロボットを活用した介護技術開発支援モデル事業の3本の事業を柱としています。このうち「ニーズ・シーズ連携協調のための協議会設置事業」では、開発前の着想段階から介護ロボットの方向性について開発企業と介護現場が協議し、介護現場のニーズを反映した開発の提案内容を取りまとめることが目的とされます。

なぜ介護ロボットの開発で作業療法士が活躍しているのか

ニーズ・シーズ連携協調協議会では、プロジェクトコーディネーター(以下、PC)の配置が必要です。PCは、介護現場のニーズを真に汲み取って開発シーズとつなげられるようにプロジェクトを牽引します。つまり、事業の主体である協議会が円滑に運営できるように支援することがPCの重要な役割です。また、PCとして想定される人材は、介護現場及びロボット開発に関して十分な知識を有し、ニーズとシーズのどちら側にも配置が必要とされています。ニーズ側では、福祉関係専門職として作業療法士へ、厚生労働省から大きな期待が寄せられました。そして、作業療法士はその期待に応える大きな成果をあげています。私見によれば、作業療法士は生活を科学的に分析する能力を備えた専門職です。その能力により、モノ中心から使う人間を中心にしたモノ作りの推進、いわゆる人間中心設計(Human Centered Design)¹⁾の担い手として、介護ロボットの開発で活躍していると考えます。

【参考文献】

1) 山崎和彦, 人間中心設計入門, 近代科学社, 2016.

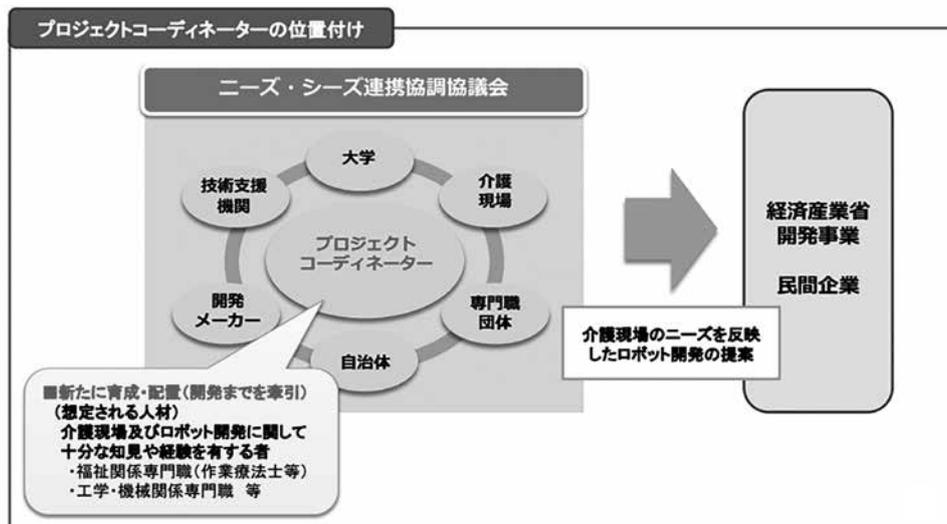


図 ニーズ・シーズ連携協議会における
プロジェクトコーディネーターの位置づけ
(引用；厚生労働省公表資料)



略 歴

長崎大学医療技術短期大学部作業療法学科 卒業
 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻 博士課程修了
 佐賀県介護実習普及センター専門相談員
 厚生労働省 老健局振興課 福祉用具・住宅改修指導官
 長崎大学 産学官連携戦略本部 准教授
 (文科省地域イノベーション戦略支援プログラム招聘研究員)
 国際医療福祉大学 教授
 長崎大学 客員教授
 国際医療福祉大学大学院 特別教授

学 位

修士(医科学) 佐賀大学、博士(医学) 長崎大学

学会発表

- Eiji Kitajima, et. al, Comparison of the Balance Ability of the Elderly Using Walkers/ Shopping Carts and Outpatient Care Facilities, The 1st Asia Pacific Occupational Therapy Symposium (APOTS 2017, October 20th-22nd, 2017 in Taoyuan)
- 北島栄二：第51回 日本作業療法学会, 「高齢者の階段昇降を支援する電動手すりの開発 - 斜面市街地の住民参加の効果検証と反復設計 -」, 2017. 9. 22
- 北島栄二, 第16回世界作業療法士連盟大会・第48回日本作業療法学会 (WFOT Congress 2014), 斜面市街地の外出を支援する階段道昇降アシスト手すりの開発, 2014. 06. 20

論 文

- Actual use of and satisfaction with rollators and 'shopping carts' among frail elderly Japanese people who use day-service facilities. Disability and Rehabilitation: Assistive Technology, Published online: 06 Apr 2016

著 書

- 生活環境学テキスト(シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ), 細田多穂(監修), 北島栄二 他(編集), 南江堂

介護ロボットと作業療法の響創

2018・2019年度

介護ロボットニーズ・シーズ連携協議会 熊本協議会

神野 一剛 熊本託麻台リハビリテーション病院

爲近 岳夫 熊本保健科学大学

大塚 開成 九州中央リハビリテーション学院

2018年、厚生労働省の「介護ロボット開発等加速化事業」の一つとして、開発前の着想段階から介護ロボットの開発の方向性について開発企業と介護現場が協議し、介護現場のニーズを反映した開発の提案内容を取りまとめる「介護ロボットニーズ・シーズ連携協議会」が全国に設置された。

我々は熊本県協議会として、① 2018年度は「服薬介助支援ロボット」、② 2019年度は「座位適合ロボット」と「余暇活動支援ロボット」を提案した。この3つの介護ロボット案をまとめるにあたっては、医療や介護現場へのニーズ調査、経験や異なる領域で働く作業療法士との『響創』、多職種との『響創』、開発企業との『響創』など様々なプロセスを経た。本学会のテーマであるさまざまな『響創』がなければ、この3つのロボットを提案することはできなかった。

本シンポジウムにおいては、熊本県協議会が提案した3つの介護ロボット案を紹介する。それぞれのロボットがどのような現場のニーズのもと誕生したのか、作業療法士ならではの視点でアイデアをどのようにまとめていったのか、このロボットを現場に導入することでどのような場面の介護負担に繋がるのか、そして我々がどのように『響創』をしてきたのかをお話したい。介護ロボットの分野における作業療法の可能性について参加者の皆様と活発な意見交換ができればと考えている。

【2018年度事業：服薬介助支援ロボット】

熊本県

「介護職員のダブルチェックを支援し、マンパワー不足を補う服薬介助支援ロボット」



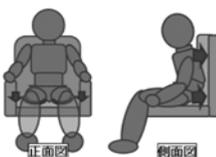
項目	—
分野以外の区分	与薬準備支援
利用場所	施設
目的	介護者の負担軽減

出典：厚生労働省 2018年度 介護ロボットニーズ・シーズ連携協議会設置事業
(<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000526477.pdf>)

【2019年度事業：座位適合ロボット、余暇活動支援ロボット】

熊本県Ⅰ（推進枠）

車いすに座った時から姿勢の崩れを解決するための座位適合ロボット



対象者	車いすでの座り直しが必要な方
課題	個人の身体・姿勢に適合して、適切な位置に座らせられる車いすが必要である
機能	適切な姿勢をつくり、「安静座位」や「活動座位」に切り替えられる
アピールポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の機器は、圧センサで検知して圧調整できるが、本案は個人の身体や姿勢をセンシングして車いすの調整・形状記憶・適切な位置へガイドまでしてくれる ・介護負担の軽減と腰痛予防が図れる ・褥瘡発生のリスクが軽減する

熊本県Ⅱ（一般枠）

AIロボット・表情認識・プロジェクション機能を活かしたプレイヤーの楽しみに配慮したボードゲーム支援ロボット



対象者	「将棋や囲碁をしたい」と思っている利用者
課題	様々な腕前の利用者に配慮した、ちょうどよい実力の相手と対戦したい
機能	腕前に合わせた強さに加減する機能、ルールやヒントを盤上に提示する機能、戦績をもとに利用者の腕前と力量が拮抗する相手を紹介する機能
アピールポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・AI搭載したロボット、プロジェクション機能を活用した ・利用者が本物の駒や石を動かして、ゲームを十分に楽しめる ・“ロボットを相手”とするだけでなく、“他者との交流を広げることで、充実した余暇時間のある人生を楽しむことができる

出典：厚生労働省 2019年度 介護ロボットニーズ・シーズ連携協議会設置事業
(<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000209634.html>)



神野 一剛

略 歴

- 1995年 熊本託麻台病院(現：熊本託麻台リハビリテーション病院) 入職
- 1998年 西日本病院 入職
- 2006年 訪問看護事業所 C&R 入職
- 2020年 熊本託麻台リハビリテーション病院 入職

〈資格・認定〉

作業療法士、日本リハビリテーション協会 認定訪問療法士、介護支援専門員

〈役 職〉

一般社団法人 熊本県作業療法士会 理事
熊本県リハビリテーション三団体協議会 生活期リハビリテーション部門 世話人



爲近 岳夫

略 歴

- 1999年 鹿児島大学医療技術短期大学部作業療法学科 卒業。
- 2008年 広島大学大学院保健学研究科保健学専攻 博士課程前期修了。
- 1999年4月より熊本託麻台病院勤務後、老健施設・精神科病院・特養施設勤務を経て、2016年9月より熊本保健科学大学保健科学部リハビリテーション学科生活機能療法学専攻講師。

〈社会活動〉

全国リハビリテーション学校協会学術委員会委員、日本作業療法士協会学会演題査読委員、熊本摂食嚥下リハビリテーション研究会運営委員、熊本市北区自立支援型地域ケア会議助言者、熊本市ふれあい出前講座講師、認知症予防応援サポートチーム with 熊保大(NYOSK) 代表など

〈著 書〉

- ・「認知症をもつ人への作業療法アプローチ～視点・プロセス・理論～(分担執筆)」
- ・「作業療法ってすばらしい～熊本の未来を担う作業療法士の活躍～(分担執筆)」
- ・「PT・OT・ST イラスト・図解でまるわかり！こんなことも知らないの？と言われないためのリハビリの基本のキホン(分担執筆)」
- ・「食べるまえ、食べるとき、食べたあと～摂食嚥下障害の現場から～(編著)」 ほか



大塚 開成

略 歴

- 2011年 九州中央リハビリテーション学院 作業療法学科 卒業
- 2011年～ 特定医療社団三光会 誠愛リハビリテーション病院 勤務
- 2013年～ 医療法人山部会 竜山内科リハビリテーション病院 勤務
(現：医療法人山部会 くまもと成城病院)
- 2018年～ 同病院 リハビリテーション部作業療法科 副主任
- 2019年～ 同病院 リハビリテーション部作業療法科 主任
- 2021年～ 九州中央リハビリテーション学院 作業療法学科 専任教員

〈資 格〉

認定作業療法士

〈社会的活動〉

熊本県作業療法士会 学術部 副部長

夢をもって働こう！ ～わたしらしく輝くために～

茂木 有希子

埼玉県作業療法士会 副会長
株式会社ハート&アート 代表取締役

先日、弊社の管理職たちに「10年後の法人」についてレポートを書いてもらいました。弊社は今年で設立10周年となりましたが、設立当初は10年後のビジョンなど描けず、「10年駆け抜けよう。それでダメだったらそれまでだ。」を合言葉に毎日が必死でした。これからの10年はもう少し社会の状況を踏まえながら夢を描き実現していきたいという思いがあり、自由に書いてもらいました。

それぞれのレポートには男女関係なく、自然な思いが描かれていました。私は組織を支える人間たちが、まだ夢を描ける会社であるということに嬉しさを覚えました。夢は実現していくものであり、決して一人では達成できません。私がOTになって22年間、3人の子供の出産と育児、仕事、起業をどれだけたくさんの人たちが支えてくれたかわかりません。今回はそのようなつながり、支え、理解がOTという仕事の質を変えてきたことをお話できればと考えています。その中の一部をご紹介します。

1人目の出産と同時に転職した私は、初めての職場に初めての子育てというとても恐ろしい選択をしたことにあとから気が付きます。でも、結果的にはこの選択によって、施設内に無料の託児所があり、母乳をあげながら仕事もでき、認知症の方々と子供たちが共に過ごすことや看取りへの立ち合いなどを経験させることもできました。

2人目は産前・産後は少し休んだものの、3人目は実質産前4日まで出勤し、産後1週間でリモートワーク！？を開始しました。さすがに、3人目の時は、施設の医師や看護師から「もう来ないでくれ」と言われ、休むことにしましたが、このようなことができたのも、施設内に託児所があり、上の2人の子供を見てもらいながら仕事ができただけからでした。

起業を決めたのも、大学院の修士論文を書いている最中でした。通勤路の空き物件を見て、ここなら地域で生きにくい、行き場の少ない方々の居場所になる、と直感的に感じたのです。そう思った時には、仕事、大学院と並行して起業の準備。13年勤めた託児所のある職場を退職し、訪問看護ステーションで週に4日働きながら起業の準備と論文に追われました。仕事が遅くなる日は前職で同僚だったPTが、自分の子供と一緒に3男を幼稚園に迎えに行きお風呂、夕食まで預かってくれました。

会社設立当初は5人だったスタッフも今では55人となりました。管理職の1人は以前の職場の託児所の保育士で18年以上の付き合いとなります。もう1人の管理職の女性は病院での同期入社以来、22年間、OT人生をともに歩んできています。

いつしか、「明日死んでもいいように今日を一生懸命生きよう」と思うようになりました。10年後の未来を描くことと矛盾しているようですが、自分自身の生き方や法人の進むべき道がぶれないためにも道標が必要だと感じています。当日は皆さんが少しでも元気になれるようなお話をしたいと思っています。



略 歴

大学卒業後、養護学校非常勤指導員として勤務

1998年 社会医学技術学院夜間部作業療法学科卒業後、
リハビリテーション天草病院 勤務

1999年 介護老人保健施設しょうわりハビリテーション課 勤務

2011年 株式会社ハート&アート 設立

2012年 埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科 卒業

2012年 (通所介護施設)リハビリ&デイサービス ダイアリー開設

2014年 (重症心身障害児通所施設)チルドレンズ・リハステーション ダイア
アリー開設

2019年 (機能訓練事業・共生型地域密着型通所介護事業)モア・リハステーション
ダイアリー開設

2020年 [生活介護事業開設により、機能訓練(モア・リハステーション)と生活
介護事業(ピア・リハステーション)の多機能型事業] ダイアリー開設

現 在

日本作業療法士協会 制度対策部保険対策委員、学術部員

埼玉県作業療法士会 副会長、地域包括ケア推進部員

さいたま市自立支援協議会 子ども部会委員

厚生労働省老人保健健康推進事業 共生型サービス調査研究事業委員

臨床実習指導で教育ツールとして MTDLP を活用する方法

講師

小林 幸治

目白大学 保健医療学部 作業療法学科 准教授

I. 講演；14:50～15:50

【研修内容】

理学療法士作業療法士養成校指定規則改正が、2020年に入学する作業療法学生から適用されます。それに伴い、臨床実習指導を診療参加型実習(クリニカル・クラークシップ)で行うことと、臨床実習指導者の資格要件が、実務経験5年以上かつ厚生労働省指定臨床実習指導者講習会等を修了していることへ変更されました。

この臨床実習指導者講習会で日本作業療法士協会が作成した2日間のプログラムには、2.5時間分、臨床実習指導方法論として「MTDLPを活用した臨床実習」(これを「作業療法参加型実習」と称す)の講習が盛り込まれています。この講習の修了者には、さらに「臨床実習指導者実践講習会」と「重点課題研修：MTDLPを活用した臨床実習指導法」を受講して頂くことが推奨されており、作業療法参加型実習について、実践研修はより実際の指導方法を学べるプログラムとなっており、重点課題研修は学内教育の検討と領域別実習指導の紹介を行っています。そして、各地において臨床実習の中でMTDLPが用いられるようになっていきます。これは、MTDLPを使うと作業療法の考え方が学生に見えやすく、伝えやすいという特徴が知られてきたためだと考えています。

さて本講座のキーワードは「臨床実習」「MTDLP」「クリニカル・クラークシップ」です。次の内容を解説して、その上で参加者全員にて一緒に考える形式で進めたいと思います。

- ①養成校における MTDLP の教え方
 - ②臨床実習で MTDLP を活用するとどんな内容が指導できるか
 - ③クリニカル・クラークシップ方式での MTDLP 臨床実習指導
- ①は「生活行為向上」についてのイメージを学生に持たせるための教え方をテーマとします。
②は MTDLP を活用した臨床実習の利点には、作業療法のプロセスを経験させることが可能
ということをテーマにします。
③MTDLP × CCS = 本来的な作業療法臨床実習の指導方法であることをテーマにします。

対象者の生活行為に焦点を当てた作業療法を次の世代に伝えていくために、学内教育や臨床実習指導でのヒントを得て頂ければと思います。

Ⅱ. グループディスカッション；15:50～16:50

テーマ；シェアしよう！MTDLPの臨床実習での活用法

養成校の先生と臨床実習指導者で、MTDLP × CCS 臨床実習指導について語り合いませんか。

今から、臨床実習指導者になられる方も、今後の学生指導について、一緒に考えましょう。学生さんは、養成校で、MTDLPを学んで実習に出てきます。しかし、現場でのMTDLPを使った指導は、なかなか難しいという話をよく耳にします。みなさんも、お悩みではないでしょうか？そこで、今回の企画を通して、各々の場所で、「どういう工夫をしているのか」を出し合って、お互いに、メリットをシェアしてみませんか！

そして…みんなで実践していきましょう！



略 歴

- 国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院 作業療法学科 卒業
- 急性期病院、回復期病院、老健、訪問看護ステーション等で実務を経験
- 首都大学東京大学院人間健康科学研究科 博士課程修了
- 目白大学 保健医療学部作業療法科ならびに同大学院リハビリテーション学研究科 准教授
- 日本作業療法士協会養成教育委員会 MTDLP 教育推進班長および臨床実習指導者講習班員
- 日本作業療法教育学会理事クリニカル・クラークシップに基づく作業療法臨床教育研究会 (CCS_OT 研究会) 理事
- NPO 法人学びあい 理事
- 埼玉県作業療法士会地域包括ケア推進部員

* MTDLPの臨床実習について質問のある方は、kuma.mtdlp@gmail.com まで事前に連絡をお願いします。

養成校の先生方、臨床実習指導者の方、今後実習指導者になられる方など、多くの方のご参加をお待ちしております。

県士会事業企画報告会

響創・共創・競争 ～九州はひとつ！人がつながる士会活動を語ろう！！～

■これまでの経緯

九州作業療法士会会長会は、九州の各士会会員の資質向上を図ることを目的として、学会やMTDLP研修などの企画運営を行ってきました。

そのひとつであるリーダー養成研修会は2008年より、コーチングスキルを高める研修からスタートし、近年では大規模災害支援をテーマにするなど、各士会団体や臨床組織をリードする人材養成に取り組んで来ました。

■今回の企画の流れ

リーダー養成研修会を継続する中で、研修会に参加した会員が士会内組織に増加していきましたが、その効果は見え辛い状況でした。それは県士会で取り組まなければならない事案が増加し、加えて各県よりの研修会への派遣が毎年1名であった為に組織化に繋がらなかったからだと考えられました。

平成30年度の第3回および令和元年第1回の士会長会会議で、当研修会の今後の方向性についての検討を行いました。この中で、士会活動の活性化が図れた事例の報告や、市町村単位で細かな対応を行うための「小さな県士会」を組織していく必要性の報告などがなされました。こういった好事例や課題について、各士会の情報交換が活発に行われ、その成果をそれぞれの士会活動に活かしていくことでリーダー養成につなげていけるのではないかという結論になりました。研修会の方向性としては以下のような形を考えました。

- 同じテーマに3年間取組み、九州作業療法学会で成果の報告を行う。
- 研修会へは毎年各県から3名の派遣を行い、県士会内で連携した組織づくりを行える仕掛けを作る。
- 取り組むべきテーマは、県士会が共通で抱えている課題をピックアップし、情報交換を行う中で解決のヒントを得られる仕組みにしていく。
- 情報交換を行うことで参加者同士が士会の枠を超えて連携できるようにする。

このような方向性を踏まえ、以下の3つのテーマに取り組んでいただくこととしました。

テーマ1：学会参加者を増やすための企画

テーマ2：市町村ごとに窓口となる人材を養成するための企画

テーマ3：県士会活動に参画してくれる人材を発掘し、次世代幹部候補者の養成につなげる企画

第1回目研修会は令和元年10月26日・27日の2日間にわたり実施しました。

3つのテーマに対して各県士会から推薦者3名を選出し、1名ずつ各テーマを担当し、当日の研修会に参加しました。内容としても、グループディスカッションが7割程であり、参加者が活発に意見交換・企画の提案を行う研修会を実施しました。

第2回目研修会は、令和2年10月5日(月)に開催しました。

Web研修会として実施し、前回と同様、県士会推薦者の方が中心に参加しました。さらに深刻化したコロナ禍の状況で、前年度企画した事業案を実践することが難しい状況もあったが、各テーマに分かれてグループディスカッションを行い、各県士会の進捗状況報告や意見交換が熱心に行われました。

そして、今回九州作業療法学会の枠で3つのテーマについて各県士会で企画されている事業案を発表することになりました。下記に発表会スケジュールを明記しました。各県士会ともコロナ禍の中で、悩みながらも工夫やアイデアを考えて出して企画しております。

報告会では気軽に質問が行えるように企画しておりますので、ぜひご参加ください。

■ 報告会タイムスケジュール

13:30 開会の挨拶・企画の説明

13:40 テーマ1

発表：長崎県作業療法士会・鹿児島県作業療法士協会・沖縄県作業療法士会
フロアディスカッション

14:40 テーマ2

発表：佐賀県作業療法士会・宮崎県作業療法士会・熊本県作業療法士会
フロアディスカッション

15:40 テーマ3

発表：福岡県作業療法協会・大分県作業療法協会
フロアディスカッション

16:30 総評・閉会の挨拶

A series of horizontal dashed lines spanning the width of the page, intended for writing or drawing.

一般演題 プログラム

一般演題

セッション1 6月19日(土) 12:00～12:50

第1会場 (Zoom)

[優秀演題発表]

座長：山野 克明 (熊本保健科学大学)

- SS-1** 認知症患者に対する情動機能の評価法の検討
岩切 良子 日南市立中部病院
- SS-2** 統合失調症を有する慢性期患者に対し、病識獲得及び服薬意識向上を目指した取り組み～事例を通しての心理教育における効果と課題～
林田 浩司 医療法人さざなみ 鈴木病院
- SS-3** 重度障害を有する頸髄損傷患者の食事獲得に向けた取り組み～課題指向型アプローチを経験して～
松永 拓己 社会医療法人令和会 熊本リハビリテーション病院
- SS-4** 義歯装着の有無が巧緻動作に及ぼす影響
吉田 実樹憲 医療法人せいわ会 聖和記念病院
- SS-5** 当院一般病棟および地域包括ケア病棟入院患者の作業機能障害に関する実態調査— Person-Environment-Occupation モデルに基づく特性分析—
舞田 大輔 医療法人田中会 武蔵ヶ丘病院

セッション2 6月19日(土) 12:00～12:50

第2会場 (Zoom)

[感染症関連 訪問C]

座長：森 英輝 (くまもと成仁病院)

- 01** コロナに負けない！今できる活動を考える！
～戦争体験朗読会を通して～
山部 望 介護老人保健施設 愛・ライフ内牧
- 02** 新型コロナウイルス感染症「COVID-19」に対する職場での取り組み— ICT を使用した家族指導—
田中 龍太郎 社会医療法人令和会 熊本リハビリテーション病院
- 03** 在宅支援リハビリセンター推進事業における同行訪問に対する取り組みについて～追跡調査を実施して～
中村 雄太 医療法人 稲仁会 三原台病院
- 04** 訪問型短期集中サービス事業発足までの変遷～自立支援型ケアの浸透を目指した天草ブロックの活動～
引地 大介 熊本県作業療法士会 天草ブロック
- 05** 天草市独自の訪問型短期集中サービスにおける OT 同行訪問の実際と課題
松本 俊寛 熊本県作業療法士会 天草ブロック

[MTDLP]

座長：藤木 昭彦 (荒尾こころの郷病院)

06 当法人作業療法課の生活行為向上マネジメント浸透への取組み —第二報—

小出 将志 社会医療法人財団白十字会 耀光リハビリテーション病院

07 不定愁訴の多い利用者へ創作活動を導入し、
訴えの減少と余暇活動への参加頻度が増加した一事例

大迫 夏歩 医療法人 日章会 南鹿児島さくら病院

08 調理活動の再獲得に向け MTDLP を活用した脳卒中患者の一例
～母親としての役割再獲得への支援～

河野 尊誠 社会福祉法人恩賜財団 済生会みすみ病院

09 趣味活動(手芸)の再開が社会参加への動機付け、家族の介護負担軽減に
つながった一症例

上野 恵理 医療法人日章会 南鹿児島さくら病院

10 臥床傾向にある全般性不安障害の患者に対する退院支援
～行動活性化療法と生活行為向上マネジメントの活用～

小堀 牧子 医療法人横田会 向陽台病院

[自動車運転]

座長：宮本 健太 (株式会社グローバル介護サービス)

11 当院外来作業療法における自動車運転再開に向けた支援の現状
～運転再開した患者に着目して～

神田 龍太 一般社団法人 是真会 長崎リハビリテーション病院

12 脳損傷者に対するビデオゲーム型ドライビングシュミレーターの使用経験

黒岩 亮佑 医療法人畏敬会 井野辺病院

13 発症から2年以上経過し、左上下肢操作でシミュレーター、
実車評価を通して運転可能となった一例

宮川 怜 医療法人桜十字 桜十字病院

14 軽度 USN 患者の drive simulator を用いた自動車運転の可否判定の経験
—HONDA セーフティナビ USN 評価ソフトの有効性—

今田 吉彦 社会医療法人 寿量会 熊本機能病院

15 自動車運転支援と家族支援

松下 幸久 医療法人桜十字 桜十字病院

[地域1]

座長：五十嵐 稔浩(済生会みすみ病院)

- 16** 回復期リハビリテーション病棟退院後の社会参加と日常生活動作および
手段的日常生活動作の関係性について
平田 彩友美 社会医療法人 寿量会 熊本機能病院
- 17** 地域共生社会創造へ向けたアプローチ
～農福連携における高齢者支援について～
畠山 和哉 社会福祉法人東陽会 特別養護老人ホーム りゅうぎんか
- 18** 福耕プロジェクト
～熊本県作業療法士会による熊本地震復興支援～
田尻 威雅 一般社団法人 熊本県作業療法士会 事業部 事業部担当理事
- 19** 令和2年7月豪雨における避難所仮設トイレの環境について
吉田 透 医療法人木星会 山鹿温泉リハビリテーション病院
- 20** 九州北部豪雨災害において JRAT-RRT として関わった
佐賀 JRAT 本部支援の活動報告
生田 敏明 一般社団法人 是真会 長崎リハビリテーション病院

[認知障害]

座長：松浦 篤子(荒尾こころの郷病院)

- 21** 軽度認知症を呈した症例に対する服薬の自己管理に向けた取り組み
宮川 夏実 医療法人山部会 くまもと成城病院
- 22** 認知症鑑別における Trail Making Test (TMT) の有用性
重藤 旭 医療法人社団 高邦会 高木病院
- 23** 山口符号テストとファイブコグの関連性
福田 健一郎 医療法人栄寿会 真珠園療養所
- 24** 当院入院患者の HDS-R と MoCA-J を用いた認知機能検査と FIM との関連性
松野 野々花 社会福祉法人恩賜財団 福岡県済生会大牟田病院
- 25** パズル塗り絵と認知機能低下の関連性について
—アプリケーション(タイムスタンプ)と MOCA-J による検証
河口 万紀子 学校法人 立志学園 九州中央リハビリテーション学院

26 シーティング外来における介入内容の後ろ向き検討 第1報
～より良いシーティングを提供するために～

西田 真基 独立行政法人 地域医療機能推進機構 宮崎江南病院 リハビリテーション部
独立行政法人 地域医療機能推進機構 宮崎江南病院 形成外科

27 個性を活かした車椅子シーティングの重要性
～脊髄小脳変性症を呈した2例を通して～

馬場 大地 社会医療法人 春回会 長崎北病院

28 転倒を繰り返す患者の退院支援

副島 千聖 医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院

29 MELAS 症候群に対する急性期病院での作業療法士の役割

高橋 弘樹 長崎大学病院

30 視覚と聴覚の中途障害者に対する点字を用いた趣味活動の獲得

吉川 千鶴 医療法人光心会 諏訪の杜病院

31 高次脳機能障害者の回復期リハビリテーション病棟における病識変化の経過について
～電子カルテを用いた後方視的検討を行った1症例～

宮脇 亘汰 辻社会福祉法人農協共済 別府リハビリテーションセンター

32 失行症を呈した症例に対する ADL 向上に向けたアプローチ
～ストラテジートレーニングを取り入れて～

飯倉 萌絵 医療法人畏敬会 井野辺病院総合リハビリテーションセンター

33 症候性てんかん発作後に多彩な高次脳機能障害を呈した一例

原田 貴正 地方行政独立法人 大牟田市立病院

34 自己効力感が低下した症例に対する趣味活動への取り組み
～失語症を呈した感覚障害患者へのアプローチ～

高橋 弘樹 医療法人光心会 諏訪の杜病院

35 脳損傷者に対する運転再開後の運転行動と神経心理学的検査の比較

黒木 一気 社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院

[地域2]

座長：江原 加一(熊本機能病院)

- 36** PTA 活動支援を通じた通所リハビリテーション利用者の社会参加
 前田 憲志 医療法人清心会 服巻医院
 集団作業療法を考える会「さんやまち」
- 37** プラン支援地域ケア会議の助言に対する振り返り
 橋口 信洋 鹿児島第一医療リハビリ専門学校
- 38** 通所介護の活動が主観的健康感や生活意欲に与える影響
 松岡 麻由子 株式会社リライブ リハデイ吉木
- 39** 脊柱後側弯様変形者に対する片脚立位の解釈とデイケアだからこそできた作業療法
 西村 彬 医療法人斎藤内科医院 通所リハビリテーションふれあい
- 40** 運動器リハから通所リハへ移行した症例の治療効果の検討
 兵働 弥大 医療法人尽心会 百武整形外科スポーツクリニック

[精神障害1]

座長：吉村 友希(熊本保健科学大学)

- 41** 精神科における高齢者に向けた作業療法音楽活動
 ～小集団での合唱を通じて～
 峯 信一郎 医療法人協治会 紅葉病院
- 42** 陽だまり散歩による効果
 ～心と体のリフレッシュ～
 朝岡 美槻 特定医療法人富尾会 桜が丘病院
- 43** 精神科療養病棟入院中にラクナ梗塞を発症した一症例
 ～定期的な体力測定の必要性～
 松葉 幸典 医療法人祥風会 甘木病院
- 44** 長期入院高齢者の体力測定結果と BMI, 年齢, 性別, 薬物量が転倒に与える
 影響について
 歌津 大誠 医療法人恵愛会 福岡病院
- 45** 個別認知リハビリテーションによる実践的介入
 ～精神科救急での取り組み～
 浦田 希 医療法人横田会 向陽台病院 医療コーディネーター部

[高齢期1]

座長：安田 大典 (熊本保健科学大学)

- 46** ADOC を用いて関わることで行動変容が見られた症例
～役割再獲得に向けた心理・環境支援～
菅谷 仁志 社会医療法人共愛会 戸畑リハビリテーション病院
- 47** 麻痺手の不使用に対し、ADOC-H を用いた介入により行動変容に至った
脳梗塞の一症例
高木 魁 社会医療法人 長崎記念病院
- 48** 作業バランスの改善が意志に影響を及ぼしたアプローチ
山本 祐輔 社会医療法人北九州病院 北九州古賀病院
- 49** 役割獲得が行動・心理症状の軽減に至った症例
福井 綾 医療法人博愛会 介護老人保健施設 博愛苑
- 50** 目標が達成されるにつれ、妻としての役割に目を向け
その人らしい生活を取り戻した事例
中村 望実 社会医療法人共愛会 戸畑リハビリテーション病院

[脳血管疾患1]

座長：大塚 開成 (九州中央リハビリテーション学院)

- 51** 食事動作の運動実行と運動イメージ中における脳血流動態の検討
松尾 萌美 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 博士課程
長崎大学 子どもの心の医療・教育センター
- 52** 脳卒中患者の食事動作の改善を考える中で、身体所有感の階層性に注目し
考察を行った症例
有川 未紗 公益財団法人 健和会 大手町病院
- 53** 右手動作の拙劣さと両手動作の協調性障害を認めた左脳皮質下出血例に対する
上肢機能訓練の試み
川添 尚武 社会医療法人寿量会 熊本機能病院
- 54** 左上肢の食事動作への参加に向けて
鎌田 愛 医療法人桜十字 桜十字病院
- 55** 提示映像の違いにおける運動イメージ中の大脳皮質領域の活動
藤原 謙吾 一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院
長崎大学大学院医歯薬学総合科学研究科 医療科学専攻 博士課程

[運動器疾患1]

座長：亀尾 香珠代(九州中央リハビリテーション学院)

- 56** 手指創傷被覆材が関節可動域と曲げ難さに与える影響
被覆テープの種類で見たエアウォールの有用性
片山 智裕 溝口外科整形外科病院 リハビリテーション部
- 57** 重度手根管症候群に対する固有示指伸筋腱移行による
母指対立再建術後の短期成績と後療法の工夫
竹部 裕也 医療法人慶仁会 川崎病院 リハビリテーション科
- 58** 上腕切断患者に対する能動義手導入により家事動作獲得を果たした一例
一障害受容に着目して一
濱島 唯 都城市郡医師会病院 総合リハビリテーション室
- 59** 習慣化した手内在筋優位な握り動作が改善された関節リウマチ例に対する
セラピィの経験
坂本 竜弥 医療法人伴帥会 愛野記念病院 手外科センター
- 60** 関節リウマチ性 MP 関節尺側偏位に対する軟部組織再建術後のセラピィの工夫
岩永 祐一 愛野記念病院 手外科センター

[精神障害2]

座長：山田 勝久(熊本駅前看護リハビリテーション学院)

- 61** 活動内での目標の共有による主体性の向上
本部 葉 特定医療法人富尾会 桜が丘病院
- 62** 感覚あそびを集団で実施して
船津 多万恵 医療法人横田会 向陽台病院 医療コーディネータ部
- 63** 統合失調症患者への強みに焦点を当てた作業療法
丸目 佳菜 特定医療法人富尾会 桜が丘病院
- 64** 精神科デイケア利用者の運動習慣と体力および作業ニーズとの関係
平澤 勉 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
- 65** 保護室利用患者への vdt MoCA 理論を用いた環境設定
～混乱のない生活リズム作りを目指して～
前田 大輝 医療法人見松会 あきやま病院

[高齢期2]

座長：元田 真一(ケアサポートメロン)

- 66** 自己管理表を用いた介入により行動変容がみられた糖尿病の一症例
森田 恭平 社会医療法人 長崎記念病院
- 67** 内部障害を呈した超高齢患者に対する急性期からの作業療法
～本人、家族との合意した目標の実現に向けて～
中村 俊貴 社会福祉法人十善会 十善会病院
- 68** 生活行為向上マネジメントを活用して調理動作の獲得ができた事例
下村 季衣 社会医療法人春回会 長崎北病院
- 69** アルツハイマー病患者における独居か同居かの世帯構成の違いによって生じる
日常生活能力指標の差の検討
吉浦 和宏 熊本大学病院 神経精神科
- 70** 音楽を用いた回想法がBPSD(行動・心理症状)に与える影響
澁谷 伸一郎 リハビリテーションセンター熊本回生会病院

[脳血管疾患2]

座長：宮本 忠司(熊本大学病院)

- 71** 小児に対するCI療法の取り組み
～ Transfer Package を重視したことで、麻痺手の使用に変化が見られた一例～
竹下 晃 独立行政法人 国立病院機構 南九州病院
- 72** 脳卒中後の片麻痺患者に対して
ロボット療法と修正CI療法を組み合わせ合わせた一症例
西道 大貴 社会医療法人財団池友会 香椎丘リハビリテーション病院
- 73** 促通反復療法とMirror Therapyの併用によって手指の随意性が向上し、
箸操作の獲得に至った脳梗塞右片麻痺の一症例
白川 楓 社会医療法人財団白十字会 耀光リハビリテーション病院
- 74** 痙性斜頸、ジストニア症状を呈する症例への食事支援
～ボツリヌス療法とリハビリテーションの併用～
鯉渕 直子 医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院
- 75** 痙縮、関節可動域に関するエアプレーン型肩外転装具を用いた効果検証
谷川 圭介 医療法人福岡桜十字 桜十字福岡病院

[運動器疾患2]

座長：山村 浩二(リハビリテーションセンター熊本厚生会病院)

- 76** 脊椎術後患者の糖尿病とADL・疼痛、在院日数との関係性
中島 史彦 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院
- 77** 運動器疾患を呈したリハ介入中患者の栄養状態と日常生活・認知機能との関係性
高木 佳那 社会福祉法人 恩賜財団 済生会大牟田病院
- 78** 重症熱傷患者に対し術後早期から介入した作業療法の経験
伊藤 光 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院
- 79** 上肢骨折を呈した認知症独居高齢者に対する多職種共働での取り組み
岩本 尚之 重工記念長崎病院
- 80** 薬学部への復学を目指す頸髄損傷者に対する作業療法士の役割
岩下 裕造 国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局 別府重度障害者センター

[発達障害 教育]

座長：益満 美寿(熊本保健科学大学)

- 81** 不登校を呈し小児心療科に入院する子どもの特性について
琴岡 日砂代 長崎県立こども医療福祉センター
- 82** 衝動性の高い男児に対する行動変容を目的としたアプローチと考察
松岡 弘樹 医療法人横田会 向陽台病院
- 83** 保育現場で作業療法士が出来る事
～保育士との連携を通して見えたもの～
岩本 悠 社会福祉法人 おおぞら
- 84** 臨床実習前後における客観的臨床能力試験の成績変化
桑原 由喜 学校法人向陽学園 長崎リハビリテーション学院
- 85** COVID-19対策下における学生の生活様式の特徴と生活満足度
～作業バランスを通して～
青山 克実 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

[高齢期3]

座長：山崎 孝文(九州中央リハビリテーション学院)

- 86** 急性期 OT の ADL への関わりの現状と必要性について
～脳血管疾患での食事場面を通して～
福田 恭子 飯塚病院
- 87** 『ニューヨーク近代美術館で個展を開きたい』という夢に向けた小さな合意目標
～進行がんに対する障害受容と自己表現～
塩田 聖子 医療法人稲仁会 三原台病院
- 88** 機能低下させる事無く在宅復帰を目指す
一療養スタッフと協業した機能向上対策と転倒防止対策一
川田 隆士 介護老人保健施設 サンファミリー
- 89** 脊椎圧迫骨折患者における、転倒歴と病前生活日常生活活動および FIM 利得の関係
田中 優衣 社会福祉法人恩賜財団 福岡県済生会 大牟田病院
- 90** 生活空間の広がりに影響する事象の一考察
～短時間デイケア利用者の活動範囲拡大に向けて～
河野 めぐみ 医療法人畏敬会 井野辺病院 総合リハビリテーションセンター
- 91** 短時間通所リハビリテーション利用者の外出頻度と環境要因との関連
～予備的研究～
岸本 周作 医療法人畏敬会 井野辺病院 総合リハビリテーションセンター

[脳血管疾患 就労支援]

座長：瀧野 浩二(熊本総合医療リハビリテーション学院)

- 92** 片麻痺手指に対する「リール式プリント」の紹介
加藤 貴志 医療法人畏敬会 井野辺病院
- 93** 就労支援における医療機関と企業・就労支援事業所間の情報共有化を目的とした
アンケート調査 ～脳卒中患者を対象とした回復期病棟での検討～
小西 由貴子 医療法人桜十字 桜十字病院
- 94** 役割支援が主体的な行動へ変容した事例 ～医療と就労の両立支援を経験して～
有働 尚右 医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院
- 95** 高次脳機能障害により回復期入院から復職するまでの支援が長期化した一例
ジョブコーチ支援と医療機関における就労支援の必要性
有田 祐典 医療法人桜十字 桜十字病院
- 96** サルコペニアと退院後の生活空間の関係
木戸 善文 社会医療法人令和会 熊本リハビリテーション病院

九州作業療法学会 組織図

	役 職	氏名(敬称略)	勤 務 先
三 役	学 会 長	内田 正剛	医療法人 堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院
	副 学 会 長	高木 勝隆	熊本総合医療リハビリテーション学院
	実行委員長	枅崎 高史	熊本リハビリテーション病院
学 術 局	局 長	西 聡太	介護老人保健施設 清雅苑
	副 局 長	爲近 岳夫	熊本保健科学大学
	企画部長	大塚 開成	九州中央リハビリテーション学院
	部 員	宮城 大介	青磁野リハビリテーション病院
		峯 真里	平成とうや病院
		田中 智寛	にしくまもと病院
		小手川 耕平	熊本保健科学大学
		岩永 知寛	向陽台病院
		山城 有一郎	弓削病院
		宮本 健太	株式会社グローバル介護サービス
		橋本 ゆりか	武蔵ヶ丘病院
		清田 輝	熊本託麻台リハビリテーション病院
		矢野 賞太	合同会社 6L
	査読編集部長	坂田 亮	合志第一病院
	部 員	小林 志穂	熊本市立植木病院
		小牧 龍二	リハビリテーションセンター熊本回生会病院
		長井 ひかる	熊本機能病院
		高木 達郎	株式会社 弘プラン デイサービスセンターだんだん
		寺本 聡司	サンセリテ月出
		中園 純子	菊陽病院
野仲 泰良		熊本駅前看護リハビリテーション学院	
松本 明人		熊本医療総合リハビリテーション学院	
宮田 浩紀	熊本保健科学大学		
相 談 役	野尻 明子	清藤クリニック	

	役 職	氏名(敬称略)	勤 務 先
運 営 局	局 長	西田 充征	熊本労災病院
	副 局 長	財津 岳士	済生会みすみ病院
	会場運営部長	那須 語	谷田病院
	会場運営副部長	立花 尚寛	山江老人保健施設
		本郷 一宏	介護老人保健施設 サンライフみのり
	懇親会・外周班 担当責任者	田尻 威雅	桜が丘病院
	懇親会・外周部 担当	中村 純	平成病院
	企業展示班 担当責任者	園川 卓	国立長崎医療センター
	企業展示班 担当	秋野 淳	熊本労災病院
		尊田 英二郎	高田病院
	受付クローク班 担当責任者	中山 彰子	くまもと成城病院
	受付クローク班	森下 梨菜	水前寺とうや病院
		松田 知子	認定 NPO 法人 とら太の会 計画相談事業とら太
	相 談 役	牛島 由紀雄	山鹿市民医療センター
青山 和美		にしくまもと病院	
事 務 局	局 長	松井 匠	桜十字病院
	総務部長	松尾 成一郎	桜十字病院
	部 員	松下 幸久	桜十字病院
	広報部長	上村 英輝	阿蘇やまなみ病院
	財務部長	佐野木 雄志	リハビリテーションセンター熊本回生会病院
	部 員	吉川 浩之	桜十字病院
	相 談 役	本田 直	九州中央リハビリテーション学院
山野 克明		熊本保健科学大学	

広告・機器展示一覧(順不同)

■ 広告企業一覧

バトン合同会社
株式会社 ケープ
アビリティーズ・ケアネット株式会社
医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院
有限会社 三協車椅子製作所
株式会社 PRIDIST

■ 機器展示一覧

有限会社 三電
株式会社 オフィスサニー
シーホネンス株式会社
パラマウントベッド株式会社
株式会社 モリトー
サンライズメディカルジャパン株式会社
有限会社 フジオート
ラックヘルスケア株式会社
株式会社 aba
マッスル株式会社
株式会社 ケープ
株式会社 PRIDIST
バトン合同会社

後援団体一覧(順不同)

熊本県

熊本市

公益社団法人 熊本県医師会

一般社団法人 熊本市医師会

公益社団法人 熊本県精神科協会

公益社団法人 熊本県理学療法士協会

一般社団法人 熊本県言語聴覚士会

一般社団法人 熊本県社会福祉士会

一般社団法人 熊本県介護福祉士会

公益社団法人 熊本県栄養士会

公益社団法人 熊本県看護協会

一般社団法人 熊本県歯科医師会

一般社団法人 熊本県介護支援専門員協会

熊本県精神保健福祉士協会

公益社団法人 熊本県歯科衛生士会

公益社団法人 熊本県薬剤師会

熊本日日新聞社

RKK

TKU

KKT

KAB

FMK

FM791

編集後記

九州作業療法学会2021 in 熊本の学会誌を皆様にお届けすることができ、大変嬉しく思います。そして、作成に関わられた多くの方々に心より感謝申し上げます。

本学会の実行委員会が発足されたのは、約2年前になります。対面開催で準備を進めていた矢先、COVID-19の感染拡大に伴い、やむを得ず方針を変更することになり、今回、初めてWeb配信を活用した九州作業療法学会と相成りました。戸惑いや不安はありましたが、実行委員全員で協力し、新しい形式での学会を作り上げられたことには大きな喜びと達成感を感じています。

本学会のテーマは「響創～作業療法が奏でる人・作業・環境のハーモニー～」です。2025年問題から、更に深刻視されている2040年問題への備えとして、地域共生社会の実現が叫ばれています。今回の学会がこれらの社会問題に対して、仲間同士で響き合いながら、新たなものを創造する作業療法の一助になりましたら幸いです。

最後に、ご支援いただきました各団体・法人の皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。熊本だけでなく、九州全体の作業療法士から美しいハーモニーが奏でられ、更なる専門性の探求と地域社会への貢献に繋がることを心より祈念致します。

九州作業療法学会2021 in 熊本

実行委員長 枘崎 高史

〈次期開催予定〉

九州作業療法学会 2022 in 佐賀

会 期：2022年6月18日(土)・19日(日)

会 場：佐賀市文化会館
(〒849-0923 佐賀市日の出1-21-10)

学会長：山口 洋一(白石共立病院)

主 催：九州作業療法士会長会

九州作業療法学会 2021 in 熊本

発行者：九州作業療法士会長会

事務局：一般社団法人 熊本県作業療法士会
〒861-8045 熊本県熊本市東区小山2丁目25-17
グランレーヴ壱番館103号室
E-mail：kyuot2021@gmail.com

出 版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>



■ 学会事務局：

一般社団法人 熊本県作業療法士会

〒861-8045 熊本県熊本市東区小山2丁目25-17

グランレーヴ壱番館103号室

E-mail: kyuot2021@gmail.com

学会HP <https://kyuot2021.secand.net/>